

# 就職試験 ジャーナル

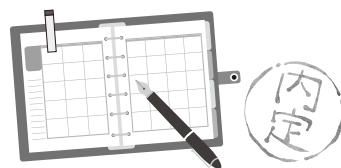
第42巻 臨増1号

2020年6月1日発行

## 特集 高校生の就職 知っておきたい基礎知識

企業研究、自己分析、筆記試験対策など、就職試験の準備は多岐にわたる。学業と並行して効率的に行うには2学年の夏休み前後から始めたいものだ。

今号では、就職指導を始めるにあたって押さえておきたい高校新卒者の就職に関する基礎知識をご紹介します。



### 高校新卒者の就職の基本ルール

言うまでもなく、高校生にとっての最優先事項は学校での学習である。よって、学業の妨げにならないよう、高校新卒者の就職活動については厳格なルールが定められている。

#### ①採用スケジュール

高校新卒者の求人は、ハローワークが内容を確認してから提示される。求人は、学校を通して求人票が公開され、応募も学校を通して行う形が一般的である（学校を通した求人に応募する場合には学校の推薦が必要であり、希望者が多数の場合は校内で選考が行われる）。

ハローワークによって確認された求人票の公開日や応募開始日などは、統一されたスケジュールがあり、例年、次のようになっている。

7月1日 求人票公開

9月5日 応募書類提出開始

※沖縄県は8月30日

9月16日 選考および採用内定開始

#### ②一人一社制

学校を通して行われる求人において、9月の応募書類提出開始日から一定期間、一人の生徒が応募できる企業は一社に限定されており、内定を得られなかった場合に次の企業に応募できる。また、大学生の就職と異なり、原則として内定辞退はできない。

ほとんどの都道府県で採用されている制度だが、複数の企業に応募可能となる時期など、細かなルールは都道府県によって異なる。

なお、一人一社制については「生徒にとっての選択肢を広げることなどを目的として、毎年度見直しを行っていくことなどが求められる」という

#### 資料1 ●高校新卒者の求人数・求職者数・求人倍率・就職内定率の推移

卒業年 (3月末)	求人数 (人)	求職者数 (人)	求人倍率 (倍)	就職内定 率(%)
2005年	256,660	179,382	1.43	94.1
2006年	293,071	181,637	1.61	95.8
2007年	332,148	185,485	1.79	96.7
2008年	345,599	184,387	1.87	97.1
2009年	322,620	178,302	1.81	95.6
2010年	197,960	153,227	1.29	93.9
2011年(※)	194,635	156,655	1.24	95.2
2012年	208,701	160,242	1.30	96.7
2013年	227,168	165,777	1.37	97.6
2014年	255,472	164,268	1.56	98.2
2015年	316,055	171,084	1.85	98.8
2016年	352,993	172,748	2.04	99.1
2017年	387,308	173,586	2.23	99.2
2018年	432,669	171,265	2.53	99.3
2019年	476,969	171,313	2.78	99.4

※岩手県、宮城県、福島県については、東日本大震災の影響により2011年3月末現在の求人数、求職者数および就職者数の一部が集計できなかった。(厚生労働省)

報告が2020年2月に文部科学省と厚生労働省から出されており、今後の動向を注視したい。

### ③求人票・応募書類の書式

求人票のほか、履歴書や調査書の書式は全国で統一されており、それ以外の書類の提出を企業から求められることはない。なお、求人票については、2020年1月から書式変更されている。厚生労働省が新求人票の見方のポイントをまとめたリーフレットを作成し、「高卒就職情報 WEB 提供サービス (<https://koukou.gakusei.hellowork.mhlw.go.jp/>)」で公開しているので参考にしてほしい。

## 高卒就職者の状況

高校卒業者の就職状況のデータを集計・公表している主な官公庁は、厚生労働省と文部科学省である。以下、厚生労働省発表の「高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況」と文部科学省発表の「新規高等学校卒業者の就職状況に関する調査」を中心に高卒就職者の現在の状況を説明する（特に記載がない場合、データはこの2調査からの出典）。

ただし、2省の調査において、調査対象が若干異なることに注意いただきたい。厚生労働省の調査対象は学校やハローワークからの職業紹介を希望した生徒、いわゆる民間就職希望者であるのに対し、文部科学省は自営業や公務員も含めた就職希望者全員を対象としている。

なお、これらの調査の最新データについては、『就職試験ジャーナル 第42巻第2号（11月9日発行）』に掲載予定なので、こちらもご参照いただきたい。

### ①求人数・求職者の推移

厚生労働省によると、2019年3月高校卒業者への求人数は約47万7千人、求職者数は約17万1千人となった（資料1）。前年と比較すると、求人数が約4万4千人増に対し、求職者は48人増とほぼ横ばい。求人数は2012年に増加に転じ、近年は大幅な増加が続いていた。

その結果、2019年の求人倍率は2.78（前年から0.25ポイント上昇）、就職内定率は99.4%（同0.1ポイント上昇）となった。

就職内定率は、東日本大震災によって求人数が大きく落ち込んで下がったが、その後回復傾向をたどり、2016年以降は99%台という高水準を保っている。

### 資料2 ● 2019年3月卒業者の県外就職率 都道府県別ランキング

県外就職率が高い県ベスト10		県外就職率が低い県ベスト10	
1	青森 45.5%	1	愛知 3.8%
2	鹿児島 45.3%	2	富山 4.7%
3	佐賀 43.0%	3	北海道 8.3%
4	奈良 42.0%	4	福井 8.4%
5	宮崎 41.7%	4	静岡 8.4%
6	熊本 40.3%	4	大阪 8.4%
7	長崎 38.9%	7	滋賀 8.6%
8	秋田 35.0%	8	石川 8.8%
9	高知 33.1%	9	東京 9.8%
10	岩手 32.5%	10	長野 9.9%

（文部科学省）

### ②県外就職率

県外就職率（就職者に占める県外就職者の割合）は、その地域の産業の特性や求人倍率に関連する。文部科学省によると、2019年3月末卒業者の県外就職率は、全国平均が19.5%（前年より0.5ポイント上昇）、男子が21.7%（同0.4ポイント上昇）、女子が16.0%（同0.6ポイント上昇）である。都道府県別に見ると、最も高かったのは青森県の45.5%だが、そのほか九州地方で高くなっている（資料2）。一方、求人数の多い首都圏や大都市を含む道府県は低い傾向にある。最も低い県は愛知県（3.8%）で、ここ5年間変わらない状況である。これは、自動車関連のグループ企業を中心とした大きな就職市場があるからだと推測される。

### ③職業別就職状況

高卒就職者の職業別就職状況を見ると、最も割合が多いのは「生産工程従事者」（製造・加工、機械組立、整備修理など）である（資料3）が、この10年で減少傾向にある。一方、10年前に比べて従事する割合が増えているのが「その他」である。保安、建設・採掘、輸送・機械運転等が含まれており、最近の高卒就職者の受け皿として特徴的な職業といえよう。

### ④離職率

若年労働者の離職率は、バブル経済崩壊後、いわゆる七五三とも言われ、就職して3年以内に、中卒で7割、高卒で5割、大卒で3割が最初の仕事を辞めると言われてきた。しかし、高卒の場合、3年以内の離職率は、調査開始以来最も高かった2000年3月卒の50.3%から、2009年3月卒には35.7%まで下がってきた。その後、再び上昇して

おり、近年は40%前後で推移している（資料4）。

一口に3年以内の離職といっても、入社後年数を重ねるごとに離職率は下がっていく。2016年3月卒で見ると、1年目は17.4%、2年目は11.7%、3年目は10.1%となっている。ここから、離職を防ぐには入社後の最初の1年を乗り切ることが非常に重要であると読み取れる。

離職にはさまざまな原因が考えられるが、厚生労働省が5年に一度行う「若年者雇用実態調査」（最新は平成30（2018）年）によると、就職率が低い（就職環境が厳しい）年は離職率が高くなる傾向にあり、雇用のミスマッチが大きな一因となっているといえる。

職場での意思疎通の向上、教育訓練の実施・援助など、企業でも若い社員の定着のための対策を行っているが、就職希望者もしっかりと情報収集・分析して自分の興味・適性に合った就職先を選択することが重要である。夏休みを中心に、インターンシップや職場見学を受け入れる企業も多い。実際の職場の雰囲気や仕事内容をつかめる貴重な機会なので、積極的な参加を促したい。

## 高卒就職志望者に求められるもの

経済状況だけでなく、定年延長や再雇用制度が若年者の雇用に及ぼす影響など、不安材料は多い。

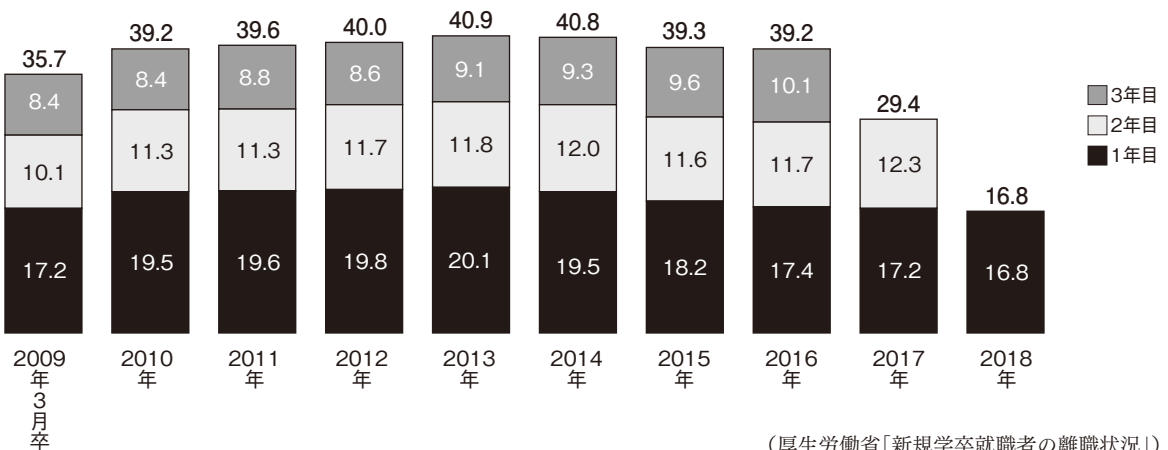
そうした中で、若年労働者に求められるものは何か。2018年に厚生労働省が、若年労働者（15～34歳）を正社員として採用選考した事業所に実施した調査によると、選考にあたり重視した点（複数回答）は、新規学卒者・中途採用者ともに「職業意識・勤労意欲・チャレンジ精神」がそれぞれ77.9%、76.0%と最も高くなっている。新規学卒者では、次いで「コミュニケーション能力」が71.1%、「マナー・社会常識」61.0%と続く（資料5）。

いつの時代も、企業が新卒者に積極性を求めるのは当然だが、昨今の若年者層に欠けていると指摘が多いのは、「マナーや一般常識」そして「組織でうまく仕事を進める力」である。特に「マナーや一般常識」は勉強すれば身につくものなので、就職・進学者を問わず、卒業するまでに参考書・問題集等の教材を、1冊でよいので取り組ませてもらいたい。

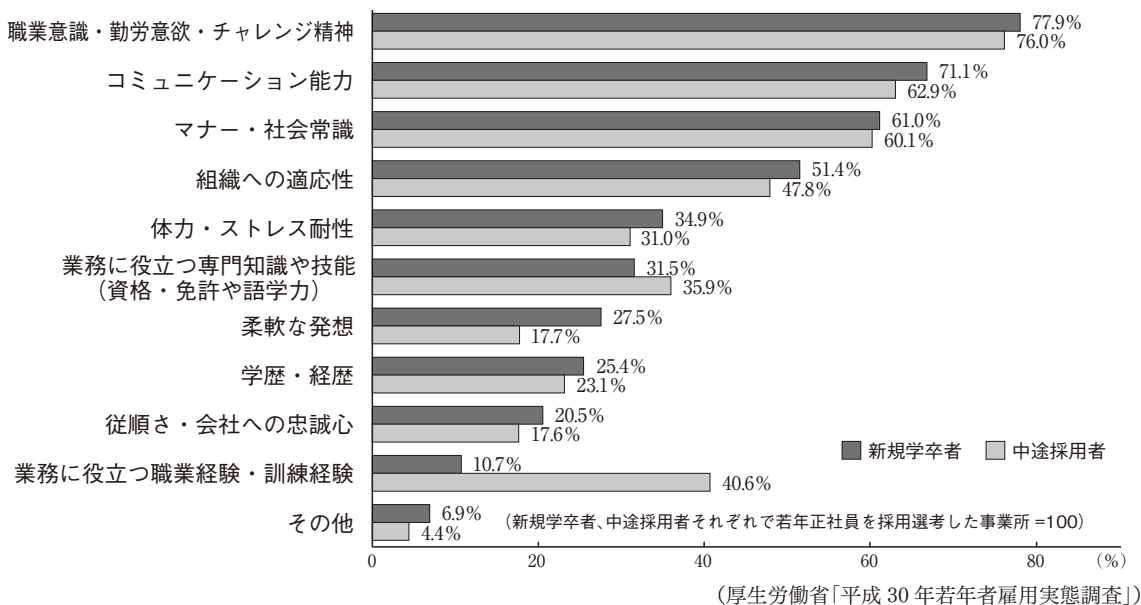
### 資料3 ● 新規高卒者の職業別就職状況の推移



### 資料4 ● 高卒就職者の在職期間別離職率の推移



資料 5 ● 正社員の採用選考にあたり重視した点別事業所割合（複数回答）



1 テーマ 50 分程度で学習できるテーマ別分冊のワーク教材。  
職場見学・インターンシップの事前指導に役立つテーマを  
ピックアップしてご紹介！

## 高校生のキャリアノート

全 25 テーマ 体裁●各テーマ A4 判・8～16 ページ  
定価●各テーマ 170 円 (税込)

### ③ 職業 いろいろ発見

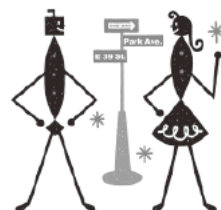
企業研究の第一歩、職業調べをサポートするテーマです。身近な職業から接する機会の少ない職業までを取り上げ、生徒の興味・関心を引き出します。同時に自身の「働く」目的を明確化させ、それに合った働き方を考えさせます。

### ⑪ 企業とその仕事を知る

「企業研究」というと業種に目が行きがちですが、1つの企業は様々な部署でなりたっており、部署ごとに異なる仕事をしています。このテーマでは企業の中の職業（職種）に注目し、自分の興味・関心を確認できます。

### ⑫ 職場 リアル体験

職場見学・インターンシップの事前・事後指導のワークブックとしてご活用いただけるテーマです。具体的なチェック項目を直接書き込むことができるので、効率的に体験レポートをまとめることができます。



★ご検討用実物見本を無料進呈！お気軽にご請求ください。☎ 03-3355-1801 実務教育出版 教育教材事業部

『就職試験ジャーナル』  
バックナンバーについて

本年と前年の『就職試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材 NAVI」でご覧いただけます。  
高等学校の TOP ページ (<https://www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/>)より、「活用情報（モデルプラン・指導情報など）」→「指導情報」をご覧ください。